

▼北陸

【富山・石川・福井】

「敦賀へ行こう」合同企画

森元(BBT)

昨年3月16日、北陸新幹線が金沢から敦賀まで延伸した。

錦秋の10月25日、晴天。北陸3民放クラブ合同で北陸新幹線・敦賀ツアーを実施。「つるぎ号」で朝、富山を出発。金沢駅、福井駅で夫々参加者が同乗し、26名が敦賀駅に着いた。

富山・敦賀間の乗車時間は1時間20分。新敦賀駅舎は「空にうかぶく自然に囲まれ、港を望む駅」というデザイン・コンセプトの通り、新幹線ホームは日本一高い37m。まるで巨大船上にいるような心地がした。

敦賀：近江・敦賀の鉄道開設をもつて北陸線の嚆矢(こうし)とする敦賀は、かつては東京とパリを結ぶ「欧亜国際連絡列車」が敦賀港駅を経由して走り、日本でも有数の鉄道と港の町であった。

駅構内で市内案内の先導役、福井クラブ小川会長のお出迎え

に恐縮。総勢27人が揃い「ぐるつと敦賀周遊バス」に乗車。金ヶ崎緑地で下車し「敦賀ムゼウム」に入館する。「ムゼウム」とは、ミュージアムのポーランド語との事。



全員集合！ 敦賀ムゼウム前



ムゼウム館内での真剣な眼差し

「敦賀ムゼウム」は命の大切さと平和の尊さを後世に伝えるための資料館だ。

大正9年にシベリアから救出された700人以上のポーランド孤児や、昭和15年頃からの6000人のユダヤ系避難民が、ヨーロッパを脱出し、シベリア鉄道經由ウラジオストツクから船で敦賀港に上陸。その後、第三国へ渡っていった。人命救助・人道一筋でビザを発給した日本人外交官「杉原千畝」や敦賀の人達との交流の史実を、ボランティア・ガイドの塩谷さんが熱く語る。館内の豊富な資料・映像にも感動した。

次は、歴史的建造物「赤レンガ倉庫」。明治38年建築。現在は敦賀市内を紹介する大型のジオラマやレストランなどに使用され



歴史的建造物で交歓会の1コマ

ている。そのレストランで昼食と歓談の時間を過ごした後は、702年建立と伝わる「氣比神宮」を参拝。その後、市内を30分ほど散策し、敦賀駅を午後4時半過ぎに発ち、帰路へ。石川・福井、両クラブの皆さん、ご協力ありがとうございました。

【石川】

今回の3県合同イベントに石川地区から8名が参加しました。参加者の感想をご紹介します。

「杉原千畝の功績をたどることができ、人道的に素晴らしい人がいたことを誇りに思う」

「杉原千畝の業績に思いをはせながら、次の機会には孫を連れて是非、再訪したいと思いました」

「訪問者のメッセージの中に『Thank you for your saving my Grand ma』とあったのが印象的」

『名月や北國日和定なき』は、北陸の天気は変わりやすい、と芭蕉が敦賀で詠んだ句ですが、日頃の行いのよいメンバーが多かったのか、好天の秋の散策を楽しめました」

幹事の富山のみなさん、お世話下さった福井のみなさんに感謝です。